

## 第 37 回 CIGRE パリ大会報告

日 時： 1998 年 8 月 30 日（日）～9 月 5 日（土）

場 所： パリ市国際会議場

参加人数： 2,350 名（日本からは 102 名）

記念講演： 高巖氏（中国国家電力公司総経理）中国における電力の現状と問題点および今後の発展のための基本的考え方を述べられた。

論文数： 265 篇。日本からは 22 篇でドイツと並んで世界第 1 位である。

展示（EXPO 98）：

8 月 31 日（月）から 9 月 3 日（木）までの 4 日間行われ、100 社が参加した。日本からは東芝、三菱電機、日本碍子が出展した。また、関西電力と SC23 が作成した「153 時間阪神淡路大地震応急送電の記録」が東芝、三菱電機の展示ブースで上映された。

本部役員選出：

今回次の方が再選された。

会長：Chamia 氏（スウェーデン ABB 社）

財務担当役員：関根氏（日本 東京理科大学）

技術委員長：Merlin 氏（フランス EDF 社）

また、事務総長は今年 Herouard 氏（フランス EDF 社）が就任した。

専門部会（SC）の技術討論：

各専門部会が単独または合同でそれぞれいくつかの討議議題（優先議題と称す）を設定し、この議題に対応した論文を基に意見を述べる（Contribution）方式を採っている。誰でも自由に参加し意見を述べることができる。今回は 15 の SC グループ討議のほかに 4 つの合同討議が行われた。これらの SC の討論内容については別途電気学会 2 月号 B 部門論文誌の『学界情報』で各 SC の委員長から報告頂いたのでそちらを参照いただきたい。

専門部会（SC）の運営方針検討会議：

各部会は多くの技術検討課題を持ち、ワーキンググループ等を設定して数年かけて検討し最終的には報告書（CIGRE Report）に纏める必要がある。運営方針会議ではこれら活動の報告と今後の方針について話し合われる。この会議には各国の SC 委員長と予め登録した限定メンバが出席し審議する。

パネル討論及びワークショップ：

今回下記の 2 つのパネルと 1 つのワークショップが開催された。どれも時宜を得た課題であり、多くの参加者を得て熱心に討議された。

パネルⅠ：規制緩和の系統計画・運用への影響

パネルⅡ：材料とライフサイクル問題

ワークショップ：系統の大擾乱，大学と CIGRE の LINK

日本主催パーティ：

9 月 2 日（水）凱旋門に近い日本広報文化センターで開催された。外国人と日本人を合わせて 240 人の参加を得、盛況であった。Chamia 会長夫妻，Merlin 技術委員長夫妻，Herouard 事務総長ほか，各国理事の出席をいただき，凱旋門の夜景を楽しみながら談笑に花を咲かせた。

以 上